

被災地でのボランティア活動を希望されている方々へ

大阪北部地震や平成 30 年 7 月豪雨など、昨今の災害で亡くなられた方に心からお悔やみを申し上げます。また、被害に遭われた方にも心からお見舞い申し上げます。

西日本を中心に全国広い範囲で被害が及んだ平成 30 年 7 月豪雨では、多くの方が被災地、被災者のために「何かしたい」「何かできれば」と考えていると思います。中にはボランティア活動の経験がないけれど、やってみたい人もいでしょう。被災地でのボランティア活動を希望されている方は、本紙をお読みいただき、より多くの方々に、よりよい支援活動にご参加いただきたいと思います。

事前によく情報を収集しましょう。

● 被災地の状況を十分に確かめる

いまだ水が引かない地域や、道路が寸断されたり規制がかかったりしている地域があります。現状を知らずに行くと、緊急車輛や災害復旧作業の妨げになることもあります。

● 災害ボランティアセンターの開設情報を確かめる

被災した市町村では、ボランティアの受け入れ体制を整えながら、順次「災害ボランティアセンター」を開設しています。詳細は、以下のホームページや、災害ボランティアセンターが発信する SNS をよく読んでください。特に、**ボランティア募集を被災した市町村内に居住した者に限定**している場合や、**年齢制限**を設けている場合があります。

【参考】全社協 被災地支援・災害ボランティア情報 <https://www.saigaivc.com/>

事前準備が大切です

1) 安全管理のために装備を徹底すること

現地で装備品・資機材を調達することは難しいです。ウェブサイトなどに掲載されている装備例（例：ヘルメット、マスク、ゴーグル、ゴム手、長ぐつ等）をもとに、いまお住まいの地域で必要なものを購入し、揃えてください。また、熱中症にならないよう、暑さ対策のための**水・食料**も用意して行ってください。

【参考】「水害にあったときに」～浸水被害からの生活再建の手引き～

<http://blog.canpan.info/shintsuna/archive/1420>

2) 宿泊場所、移動手段を事前に確保すること

ご自身で、宿泊場所、移動手段を事前に確保してください。被災地から少し離れたところで、宿泊場所を確保することもお考えください。

3) いま住んでいる地域でボランティア活動保険に加入すること

ボランティア活動保険は、最寄りの社会福祉協議会で加入できます。**現地に行く前日までにボランティア活動保険に加入し**、加入した証明（加入証など）を必ず持参して現地に行くようにしてください。また、いま住んでいる地域で加入することで、自宅と活動場所までの往復途上も補償されます。その一手間が、被災地の負担の軽減にもつながります。なお、今回は水害被害ですので、天災補償タイプ（地震・津波など）の加入ではなくとも、基本タイプの保険で補償されます。また、すでに有効なボランティア保険に加入されている場合は、重複での加入は不要です。保険料は補償内容によりますが、**350～510円**程度です。

【参考】「ボランティア活動保険」パンフレット：全国社会福祉協議会発行

https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/files/council/pdf/2018/volunteer_activities_pamphlet.pdf

※ 東京都、宮城県、愛知県、兵庫県など一部加入金額が異なる場合があります。



● ボランティアバスでの応援をお考えの皆様へ

今回の豪雨災害被災地は「災害時のボランティアツアー実施に係る通知の適用となる地域」に指定されたので旅行業法に抵触せずにボランティアバス事業を行いやすくなりました。ただし、安全配慮できる体制で実施することが絶対条件ですので以下の点にご注意ください

- ・ 任意形式の参加者名簿を事前に地元または活動場所の自治体または社協等に提出すること
- ・ 事業の責任者を置き、事業中に連絡が取れること
- ・ 責任者は事業を安全に実施するための知識や安全運行に必要な判断力を持っていること
- ・ 事故発生に備えて賠償責任保険やボランティア保険に加入しておくこと

【参考】観光庁「災害時のボランティアツアー実施に係る旅行業法上の取扱いに関する通知」

http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics06_000108.html

● 専門ボランティア・NPOの皆様へ

被災地では、重機などを扱う技術を有する方々や、避難所や在宅被災者の環境整備を改善する医療・保健・福祉系の方々、その他、障がい者や外国人、子どもへのケアを行う方々など、多様な被災者ニーズに対応する支援活動が求められています。過去の災害でも、多彩な専門性を持った、数多くの多様な団体が被災者支援に活躍されてきました。これまでの災害経験から、こうした様々な支援団体が活動するなかでは、互いの支援情報を共有し、活動内容や範囲を調整し合うことによって、それぞれの強み・専門性を活かした活動ができるということが分かってきています。このため、ボランティア・NPOの活動を調整し、行政・災害ボランティアセンターと連携・協働することができるような動きが、各府県・市区町村ごとに見られる場合があります。そのような府県・市区町村においては、「情報共有会議」等の名称で各府県・市町村ごとに定期的に打ち合わせが持たれています。現段階では、被災各府県によって対応が異なりますが、各府県から出されるこうした情報にも留意いただき、そのような打ち合わせが開催されている場合には、主催者に連絡を取り、積極的に参画いただきますようお願いいたします。

例：「西日本豪雨災害支援ひろしまネットワーク会議」「災害支援ネットワークおかやま（仮）」

● 寄付で被災地を支援する「ボランティア・NPO 活動サポート募金」

寄付を通じて被災地を支援する方法もあります。赤い羽根の中央共同募金会では、被災者の支援活動を行うボランティア・NPO 団体の活動費用を応援する「ボランティア・NPO 活動サポート募金」を受け付けています。ご協力をお願いします（被災された方への見舞金として給付される「義援金」も別途受け付けています）。

【平成 30 年 7 月豪雨災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ・豪雨災害）】

- ・ 募集期間：平成 30 年 7 月 10 日（火）から平成 30 年 9 月 28 日（金）
- ・ 振込先：みずほ銀行 虎ノ門支店 普通預金 2856717 <口座名義>（福）中央共同募金会
三井住友銀行 東京公務部 普通預金 177631 <口座名義>（福）中央共同募金会

※ 詳細は、中央共同募金会ホームページ <https://www.akaihane.or.jp/> をご確認ください。

かつてない広域災害となり、今後、全国で数十万人のボランティアの協力が必要な情勢です。

個々の力はもとより、学校や職場、団体の組織的な支援や継続的で息の長い支援活動が求められています。

より多くの皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援 P） <http://www.shien-p-saigai.org/>

NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD） <http://jvoad.jp/>

内閣府（防災）普及啓発担当 www.bousai.go.jp <https://bosaijapan.jp/>

熱中症予防のために

暑さを避ける

室内では・・・

- ▶ 扇風機やエアコンで温度を調節
- ▶ 遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- ▶ 室温をこまめに確認
- ▶ WBGT値※も参考に

外出時には・・・

- ▶ 日傘や帽子の着用
- ▶ 日陰の利用、こまめな休憩
- ▶ 天気の良い日は、日中の外出をできるだけ控える

からだの蓄熱を避けるために

- ▶ 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する
- ▶ 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

※WBGT値：気温、湿度、輻射（放射）熱から算出される暑さの指数
運動や作業の度合いに応じた基準値が定められています。
環境省のホームページ（熱中症予防情報サイト）に、観測値と予想値が掲載されています。

こまめに水分を補給する

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、
こまめに水分・塩分、経口補水液※などを補給する

※ 水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの

「熱中症」は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。

熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。



熱中症の症状

- めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い
 - 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が違う
- 重症になると、
- 返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

詳しくは、厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」をご覧ください。

厚生労働省 熱中症

検索



厚生労働省

熱中症が疑われる人を見かけたら

涼しい場所へ

エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ避難させる

からだを冷やす

衣服をゆるめ、からだを冷やす

(特に、首の回り、脇の下、足の付け根など)

水分補給

水分・塩分、経口補水液※などを補給する

※ 水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの



自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう！

<ご注意>

暑さの感じ方は、人によって異なります

その日の体調や暑さに対する慣れなどが影響します。体調の変化に気をつけましょう。

高齢者や子ども、障害者・障害児は、特に注意が必要です

- ・ 熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対するからだの調整機能も低下しているので、注意が必要です。
- ・ 子どもは体温の調節能力がまだ十分に発達していないので、気を配る必要があります。
- ・ のどの渇きを感じていなくても、こまめに水分補給しましょう。暑さを感じなくても室温や外気温を測定し、扇風機やエアコンを使って温度調整するよう心がけましょう。

節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください

気温や湿度の高い日には、無理な節電はせず、適度に扇風機やエアコンを使いましょう。

熱中症についての情報はこちら

▷ 厚生労働省

熱中症関連情報 [施策紹介、熱中症予防リーフレット、熱中症診療ガイドラインなど]

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/

「健康のため水を飲もう」推進運動

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/suido/nomou/>

STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン [職場における熱中症予防対策]

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133.html>

▷ 環境省

熱中症予防情報 [暑さ指数 (WBGT) 予報、熱中症環境保健マニュアル、熱中症予防リーフレットなど]

<http://www.wbgt.env.go.jp/>

▷ 気象庁

熱中症から身を守るために [気温の予測情報、天気予報など]

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kurashi/netsu.html>

異常天候早期警戒情報

<http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>

▷ 消防庁

熱中症情報 [熱中症による救急搬送の状況など]

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html